

# 共通テストリスニング 授業方針説明（映像視聴前にお読みください）

【映像担当 安井】

## 【重要①】

映像授業（第1～第3講）においては、リスニング問題を解いてから、解説映像を見てください。

## 【重要②】

第4講以降は、教室における通常授業で行う予定です。

そして、通常授業においては、教室の中でリスニングをし、問題を解き、解説をしていく方針です。

システムの都合上、リスニング音声は全てホームページに上げますが、通常授業では授業の中で放送文を聞きま  
すので、

現時点では、レッスン4以降は、聞かないでください。

## 【重要③】

教室における通常授業においては、河合塾のテキストの他、補助教材も使う予定です。

ただ、第1講においては、映像授業の特性上、本来のテキストのみに特化し、放送文の内容・単語・文法解説の  
他、今後の学習の土台であり、リスニングにおける最重要事項である音の変化・抑揚・英語独特の音の発音の仕  
方をかなり詳細に解説したことにより、本来1時間の授業ですが、約90分の解説になっています。

## 【重要④】

英語は、授業の音声教材用にゆっくりひとつひとつ単語をぶつ切りに読んでいくと、

これまで学校で習ってきた発音になりますが、ネイティブ同士が自然なリズムとスピードで読むと、音が大き  
く変化します。これが、多くの授業で習わない、非常に大きな英語の特性であり、この特性を知らないことが、  
大きなリスニングの妨げの一つです。そして、その音の変化をネイティブは無意識に行っているため、日本人  
講師が一つ一つ「法則」として説明していくことが生徒にとって利点となります。

映像授業第1講では、可能な限り米語の発音で統一したつもりでいます。

英語はある程度教材で聞き慣れていても、米語の発音は聞き慣れておらず、また、

特に米語の発音の場合、自分の頭の中にある学校でこれまで学んだ音声と、実際のネイティブのナチュラルス  
ピードでの変化した音に大きな乖離があることが、聞いて意味が理解できない大きな原因の一つであるからで  
す。

逆説的ですが、リスニング力を上げようと思っても、リスニングだけをしていてもなかなか上がりにくいです。

4 技能は連結しているからです。リスニングを上げるためにも音読は特に重要です。そして、音読のためには、  
自分が音の変化の法則を知ったうえで、それを多々音読し、可能なら暗唱してしまうのが良いでしょう。しかし、  
その際には、① どうしたら英語にしかない音を正確に発音できるのか、② 舌や音の変化③ アクセント位置④ 一文  
内における各単語の抑揚、⑤ 前置詞の弱形の理解⑥ 単語中⑥ 単語末の t の発音の抜け落ちの知識等が必要になっ  
てきます。 初期の授業ですので、上述の①～⑥、「r と l の発音の違い」、「to 等の前置詞・can 等の助動詞等の  
機能語の弱形発音」等を特に詳細に説明していますが、今後の授業において逐一繰り返し説明していくものでは  
ありません。その意味でも、初期のこの第1講の授業における上記事項の説明は、リスニングの土台となる非常  
に重要な事項です。